

森林の 施業管理

広葉樹林の循環利用に向けて

～ 再生可能な広葉樹林の管理・利用手法の確立 ～

研究の背景・目的

本県森林資源の過半を占めるナラ類をはじめとした広葉樹林は、かつては薪炭材として20～30年の短い周期で伐採され、萌芽更新により植栽等のコストをかけることなく再生していましたが、燃料革命の後は薪炭材としての利用が減少し、多くの広葉樹林は放置され高齢化・大径化しています。

樹木は大径化するに従って萌芽力が減退することが指摘されており、このままでは多くの高齢林は伐採後の天然更新が危ぶまれると共に森林再生に今まで以上のコストが掛かることが推察されます。また、大径化したナラ類はナラ枯れ被害を受けやすい状況になっており、今後もパルプ・チップ材として利用が見込まれる森林資源の低質化と経済的損失が懸念されています。

そこで、ナラ枯れ被害を受けにくく、かつ、伐採後に低コストで計画的に再生が可能な広葉樹林の管理・利用手法を確立することにより循環利用可能なシステムを構築することを目指します。



写真-1 広葉樹林皆伐跡地



写真-2 伐採株からの萌芽

研究方法

自然力を活用した広葉樹林の再生の可能性についての研究を行います。

①広葉樹林分実態調査

- ・樹種・蓄積量などの林分構成について調査を行います。
- ・ナラ枯れ被害地については被害程度の把握を行います。

②広葉樹伐採跡地の再生状況調査

- ・伐採株からの萌芽発生状況について調査を行い、林分条件やナラ枯れ被害との関係について検討を行います。



写真-3 現地調査

研究状況

今年度、県内7箇所のナラ類を主体とした広葉樹林において 調査区の

研究結果の活用

調査・研究によって得られる結果は、伐採後の広葉樹管理を行っていくうえで必要となる更新・管理基準設定などの技術指針作成に活用できます。

さらに、研究結果の応用により、伐採前に伐採後の天然更新の状況を予見するシステム開発へつなげていくことが考えられます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 舟木 徹(ふなき とおる)

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3820

E-mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 広葉樹林の循環利用システム構築に関する研究(研究期間:H23)

